

病理診断科

一般目標（G I O）

将来、専門とする臨床科目の如何にかかわらず、臨床初期の研修において人体病理についての研修は、重要な位置を占めると考えられている。病理診断科では、病理解剖や細胞診、病理組織検査を施行するための基本的知識や技術を学習し、臨床医として病理学的検査のオーダーや病理学的診断結果の評価などを適切に行えることを目指す。

経験目標（S B O）

1. 検体の受付から顕微鏡標本作製過程を理解することができる。
2. 肉眼所見の取り方を学習し、肉眼所見を取り、記録することができる。
3. 各種固定法について知る。
4. 各種染色法の原理を理解し、結果の解釈を説明することができる。
5. 頻度の高い疾患の手術検体に対して切り出し、組織診断を行うことができる。
6. 頻度の高い疾患の生検組織診断を行うことができる。
7. 術中迅速顕微鏡検査の意義適応を理解できる。
8. 細胞診断の基礎を身につけることができる。
9. 病理解剖の基礎を身につけることができる。

方略（L S）

1. オリエンテーション
ローテート開始時には、指導医、コメディカルと面談し、プログラム説明、自己紹介等を行なう。
ローテート終了時には、評価表の記入とともにフィードバックを受ける。
2. 中央臨床検査科内での研修
 - ① 病理解剖
 - ② 病理組織標本の検鏡
 - ③ 病理組織標本、細胞診断標本の作製手順
 - ④ 手術材料の切り出し
 - ⑤ 各種特殊染色の特徴
3. カンファレンス等、科の行事への参加
C P C開催の際には必ず参加する
4. 自習
研修期間中に指導医の判断の下、関連書籍・論文など病理総論的な理解につながる文献を適宜指示する

評価（E V）

1. 評価は、観察記録とし、研修医および指導医が1か月毎に行う。
2. プロフェッショナリズム、資質・能力についてはプログラム全体の評価の該当する項目で評価する。
病理診断科独自の目標に関しては専用の用紙を用いて評価を行う。

病理診断科研修スケジュール

	月	火	水	木	金
AM～ PM	症例検討 外科材料切出 術中迅速判断 病理診断 病理解剖				
業務終了～					CPC

※CPCは1～3月にローテートした場合、第2金曜日の医局会終了後に行う。